

富塚川平地区市民の森

活動計画書

令和6年3月

浜松市

目 次

1. はじめに.....	1
1.1 富塚川平地区市民の森の概要	1
1.2 活動計画の位置づけ	2
2. 活動計画.....	3
2.1 現在の活動状況	3
2.2 今後必要とされる整備等	4
2.3 活動の推進.....	6
2.4 重点プロジェクト	7
2.4.1 <u>プロジェクトⅠ</u> 次世代育成プロジェクト	7
2.4.2 <u>プロジェクトⅡ</u> 関係人口プロジェクト	8
2.4.3 <u>プロジェクトⅢ</u> 地域教材発掘・活用プロジェクト	9
3. 活動スケジュール（案）	10

1. はじめに

1.1 富塚川平地区市民の森の概要

富塚川平地区市民の森は、市の中心市街地に近接する住宅地に残された環境として、様々な生物にとって、貴重な生息環境となっています。

また、富塚川平地区市民の森は、全体面積が2.7haと、近隣の富塚椎ノ木谷特別緑地保全地区(6.7ha)と比較すると半分以下の面積ではあるが、年中枯れることのない湧水が存在し、その水量は富塚椎ノ木谷特別緑地保全地区に劣らない量です。一方、斜面部には森林、谷底低地には休耕田跡に成立した湿性草地が分布する、遠州地方の地史を反映した良好な里山環境・景観が形成されており、レッドリスト種(静岡県レッドデータブック 2019, 2020)を含む多くの生物が生息しています。特に、レッドリスト種のオオタカやフクロウは生態系ピラミッドの頂点に位置する種であり、これらが利用できる環境が残されていることは、重要なことです。

また、低温、貧栄養、弱酸性の湧水によって涵養されている湧水湿地には、氷期の遺存種で、東海丘陵要素の植物のミカワバイケイソウが生息しています。このような遺存種は、地史的影響を受けて成立したこの地域を特徴づける生物であるといえます。このほか、フクロウ等の利用する樹洞木となり得る多くの老齢木(大径木)も存在しています。ただし、本地域には、生態系に影響を及ぼす可能性のあるタイワンリス、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ等の外来生物も生息しています。これらに対しては、今後、必要に応じた管理を継続的に行う必要があります。

(森守方針書(令和5年3月)より抜粋・編集)

◇富塚川平地区市民の森 イメージ図(森守方針書より)

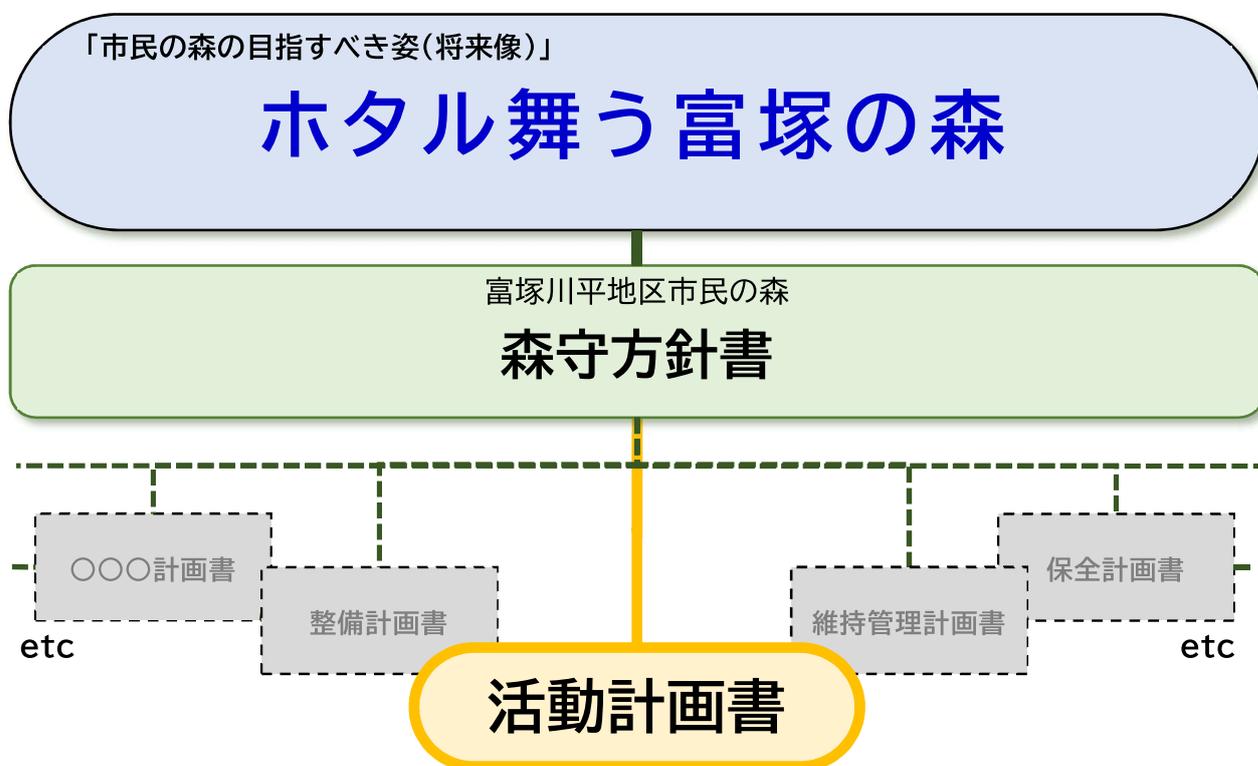


1.2 活動計画の位置づけ

本活動計画書は、令和4年度に策定された「富塚川平地区市民の森 森守方針書」に基づき、目指すべき将来像の実現に向けた活動内容を示すものです。

昨年度から引き続き実施したワークショップでは、ホタル舞う富塚の森を子ども達へと繋いでいくために、手渡す森は子ども達が安全に活動し学べる状態となっていることを実現するため、「自分が誰と」を具体的にイメージしながら活動内容についてアイデアを出し合いました。そして、ワークショップ内で出された意見をもとに、確実な一歩が踏み出せる内容を意識しながら活動計画書を作成しました。

《活動計画書の位置づけ》



2. 活動計画

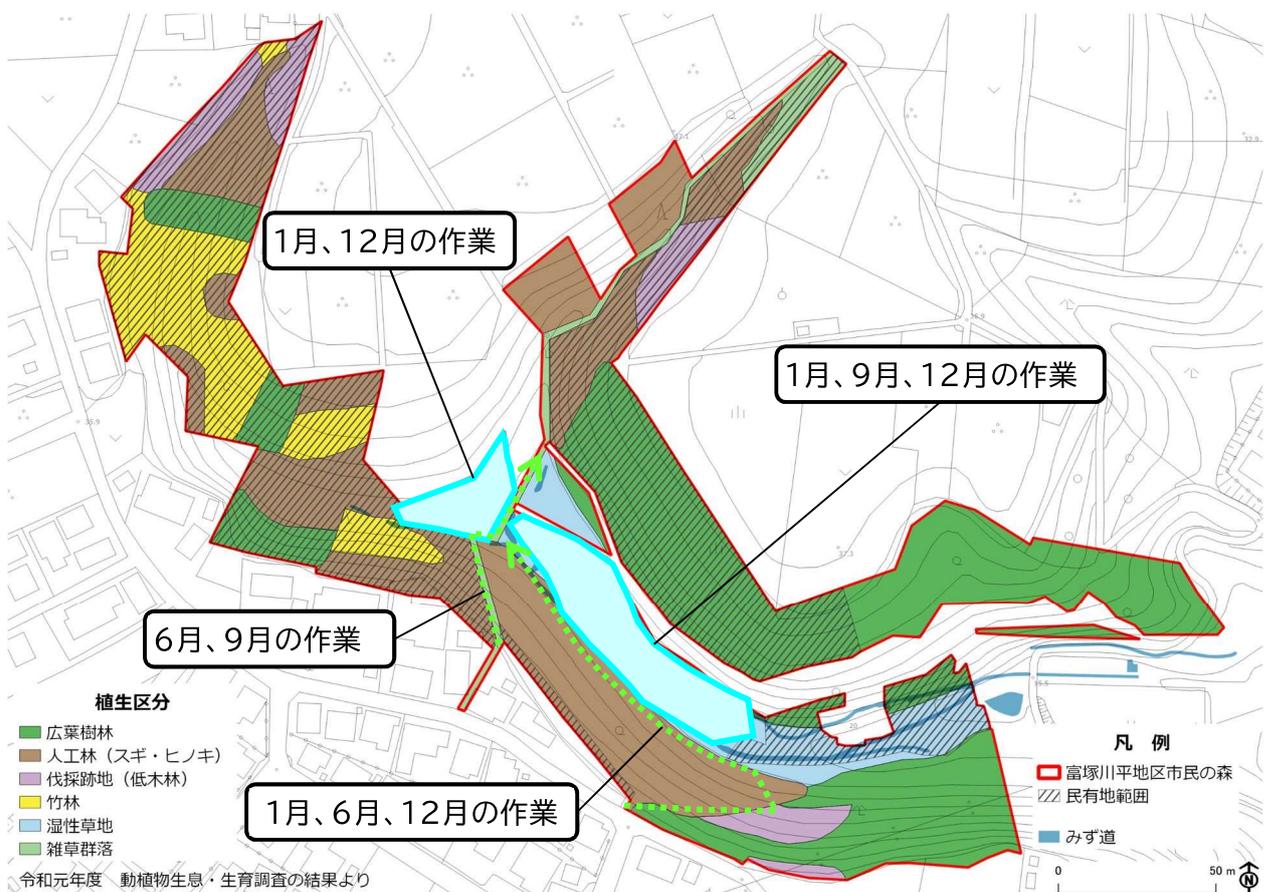
2.1 現在の活動状況

現在、既存活動団体が富塚川平地区市民の森において、ホタルの観賞会と年 4～5 回程度の森林整備を行っています。

《既存活動団体の活動内容》

実施月	作業内容	作業詳細
1月	森林の維持管理	湿地帯：水路、窪地の整備 南側斜面下：作業道の整備、倒木除去
6月	観察会に向けての 事前整備作業	観察場所までの道：下草刈り・枝打ち・手すりロープ補修 観察場所：下草刈り
9月	森林の維持管理	湿地帯までの道・湿地帯：下草刈り、枝打ち、倒木除去
12月	森林の維持管理	湿地帯：下草刈り、水路の整備 南側斜面下：作業道の整備、日照確保のための雑木伐採

《既存活動団体の活動場所》



2.2 今後必要とされる整備等

現在、既存活動団体が実施している川平湿地ゾーンでのホタルの生息環境整備を継続し、その環境を守るため、さらに別のゾーンの環境整備が行われていくことにより、ホタルだけでなくその他の希少動植物の保全に繋がり、最終的には市民の森全体が整備・保全されていくことが理想です。

【整備】

内容	詳細	実施主体
水路・水たまりづくり	(水源ゾーン・ホタルの生息環境保全のための整備) ホタルやカワニナの生息場所を確保するため、複数の水路を整備する必要があります。また、現在の市民の森の活動可能範囲については、水路の延長が短く、ホタルの幼虫やカワニナが流失する恐れがあるため、浅瀬の水たまりづくりが必要です。	活動団体等
作業道の整備	活動をする人が、安全かつ容易に作業を行うため、安全に移動できるための作業道が必要です。また、南側からの入口2か所については、斜面が急で滑りやすく、危険な状態であることから、早急な対応が必要です。	活動団体等 市
間伐(高木)	現在の市民の森は、樹木が生い茂る、暗い森となっています。ホタルをはじめとした希少種に適した生息生育環境とするためには、樹木の間伐を進め、林床に光が届く状態にする必要があります。	市
その他の整備	今後、関わるメンバーが増え、森の保全の為に必要な整備や利活用に対応できる体制が整ったときは、方針書に沿って、内容や方法を検討します。	活動団体等 市

【保全・管理】

内容	詳細	実施主体
除草	(水源ゾーン・ホタルの生息環境保全のための整備) 水路内でカワニナの繁殖場所やエサとなる藻類が繁茂する可能性のあるところは、日照確保のため、水路周辺の草刈りを優先的に行います。また、ホタルの繁殖には、飛翔空間の確保が必要となることから、水源ゾーンを中心に背丈の高い草を刈り取ります。	活動団体等
枯木・倒木等の除去・枝打ち	(作業道周辺) 活動をする人が、安全に作業を行えるように、枯木や倒木等の除去、枝打ちを行います。	活動団体等 市
その他の管理	今後、関わるメンバーが増え、森の保全の為に必要な管理に対応できる体制が整ったときは、方針書に沿って、内容や方法を検討します。	活動団体等 市

【利活用】

内容	詳細	実施主体
ホタルの観察会	現在、既存活動団体が実施しているホタルの観察会を継続して行います。	活動団体等
イベント等の企画実施	林内の整備状況等に応じ、自然観察会や森内探検など、各種イベントを実施します。	活動団体等

【その他】

内容	詳細	実施主体
勉強会	ホタルをはじめとした希少種の保全の観点から整備や保全活動を実施していくにあたり、専門家等を交えた勉強会を実施し、森に関わる人にとって必要な知識が共有できるようにします。	市 活動団体等
土地所有者との協議	今後、市民の森全体で活動を推進していくにあたり、私有地での活動も視野に入れ、土地所有者と協議を行います。	市

2.3 活動の推進

富塚川平地区市民の森を「ホタル舞う森」として、子どもたちに伝え、残していくためには、現在の活動と今後展開していく活動・整備を継続していく必要があります。そのため、1つめの課題として、活動に関わる人を増やしていくことが挙げられます。

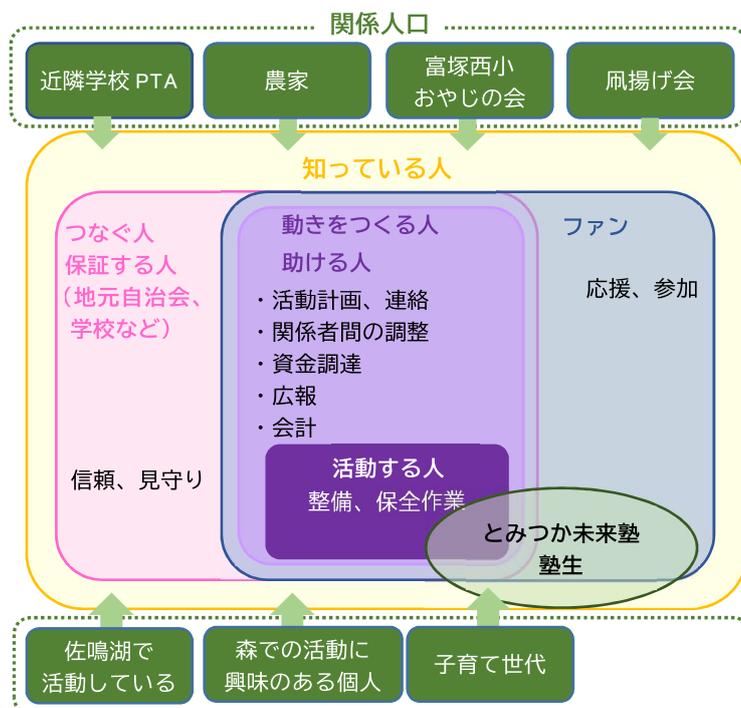
右のイメージ図のように、まずは「知っている人」を増やしていくことからはじめ、より深層部（動きをつくる人、活動する人）へと発展させていくことができるかが課題となります。また、多くの人が関わり、役割を分担することにより、一人ひとりの負担が軽減し、各自が得意な分野で無理なく活動できることが期待できます。

また、子どもに伝え・残していくことを考えたとき、理想の状態の一つは学校等との連携が出来ている状態です。2つめの課題は、その為の準備（子ども達に伝えるための体制づくり）を今から少しずつ進めていく必要があるという点です。

これら2つに重点をおき、『次世代育成プロジェクト（事業継承）』、

『関係人口プロジェクト（まちとのつながり）』、『地域教材発掘・活用プロジェクト（近隣学校との協働）』の3つのプロジェクトを足がかりに活動を推進していきます。

《関わる人のイメージ図》



《重点プロジェクト》

プロジェクトⅠ	次世代育成プロジェクト	方針達成のため (事業をつなげる)
プロジェクトⅡ	関係人口プロジェクト	方針達成のため (人・地域・まちとつながる)
プロジェクトⅢ	地域教材発掘・活用プロジェクト	方針達成の先のため (子ども達とつながる)

2.4 重点プロジェクト

2.4.1 **プロジェクト I** 次世代育成プロジェクト（事業継承）

市民の森では、既存活動団体が長年にわたりホタルのための保全活動を実施してきました。ホタルが生育できる環境を維持するためには、事業が継続するように、若手人材の育成を意識した取り組みが必要となります。既存活動団体が積み上げてきた活動を次の世代へと繋げていくために、イベント「参加者」を「運営側」へとつなぐことを目指します。

《ワークショップで出たアイデア例》

- ・ 既存活動団体イベントの参加者（子ども）の保護者への声掛け
- ・ 保護者同士で「お父さん会」のような集まりを作る
- ・ 技能習得のイベント開催（チェーンソー講習会など）

《活動案》

内容	詳細	実施主体
技能習得型イベントの実施	実際に活動できる人を増やしていくため、森の整備活動に必要な技能（草刈り機やチェーンソーなど）が習得できるイベントを実施します。	市から活動団体等へ
活動参加への声掛け・受け入れ	既存活動団体が実施しているイベントのリピーター（保護者）へ、参加の声掛けを行います。また、イベントを通じて、整備活動への参加希望があった場合は、整備活動への受け入れを行います。	活動団体等

2.4.2 プロジェクトII 関係人口プロジェクト（まちとの繋がり）

市民の森は、その存在や魅力、活動が周辺地域において、広く知られていない状況です。市民の森に関わる人を増やしていくためには、現在の輪の中に留まることなく、これまで関わりを想定していなかったコミュニティと繋がり、市民の森の可能性を広げていく必要があります。新たな活動や取り組みを受け入れ、応援することで、市民の森の活動もともに発展することを目指します。

《ワークショップで出たアイデア例》

- ・富塚川平地区市民の森以外の場所でのイベント開催（マルシェなど）
- ・キャンプイベントの開催（利用の際は料金の支払いと整備作業をすることを条件とする）

《活動案》

内容	詳細	実施主体
新機軸でのイベント実施	他団体と共同でイベントが実施できるように働きかけを行います。他団体から、市民の森でイベント等実施の希望があった場合は、可能な限り実現できるように、方針書の内容に沿って内容を調整します。	活動団体等 市
市民の森以外の場所でのPR活動	市民の森を知ってもらい、イベントや活動に参加してもらうきっかけとなるように、市民の森での活動内容等を伝える活動を進めていきます。	活動団体等 市

2.4.3 **プロジェクトⅢ** 地域教材発掘・活用プロジェクト（近隣学校との協働）

子どもたちにホタル舞う森を残すためには、整備作業や保全活動などを継続すると同時に、将来的に学校等と連携できている状態を見据えた活動の準備を進めていくことが重要です。市民の森を地域教材としたプログラムの開発や提案を行い、将来、学校の授業やPTA活動の一環として、活動プログラムに組み込んでもらえることを目指します。

《ワークショップで出たアイデア例》

- ・ 富塚川平地区市民の森で実施できる教育プログラムの開発
- ・ 周辺の小中学校へ、上記プログラムの提案活動
- ・ 周辺学校のPTAへの働きかけ
- ・ 中高生、大学生にボランティア参加を呼びかける

《活動案》

内容	詳細	実施主体
学校との意見交換	市民の森の活動について、学校に知ってもらとともに、今後どのような形で学校と連携していけるかを検討するため、意見交換を行います。	活動団体等 市
PTAとの意見交換、活動参加の声かけ	市民の森の活動について、PTA活動の一環として取り入れてもらい一緒に活動する方法を検討するため、意見交換会を行います。	活動団体等 市
地域教材（富塚川平地区市民の森）の開発	学校の授業で取り扱ってもらえるような地域教材を開発します。富塚町には小学校・中学校・幼稚園があることから、それぞれの年代にあったプログラムの作成を検討します。	活動団体等

3. 活動スケジュール（案）

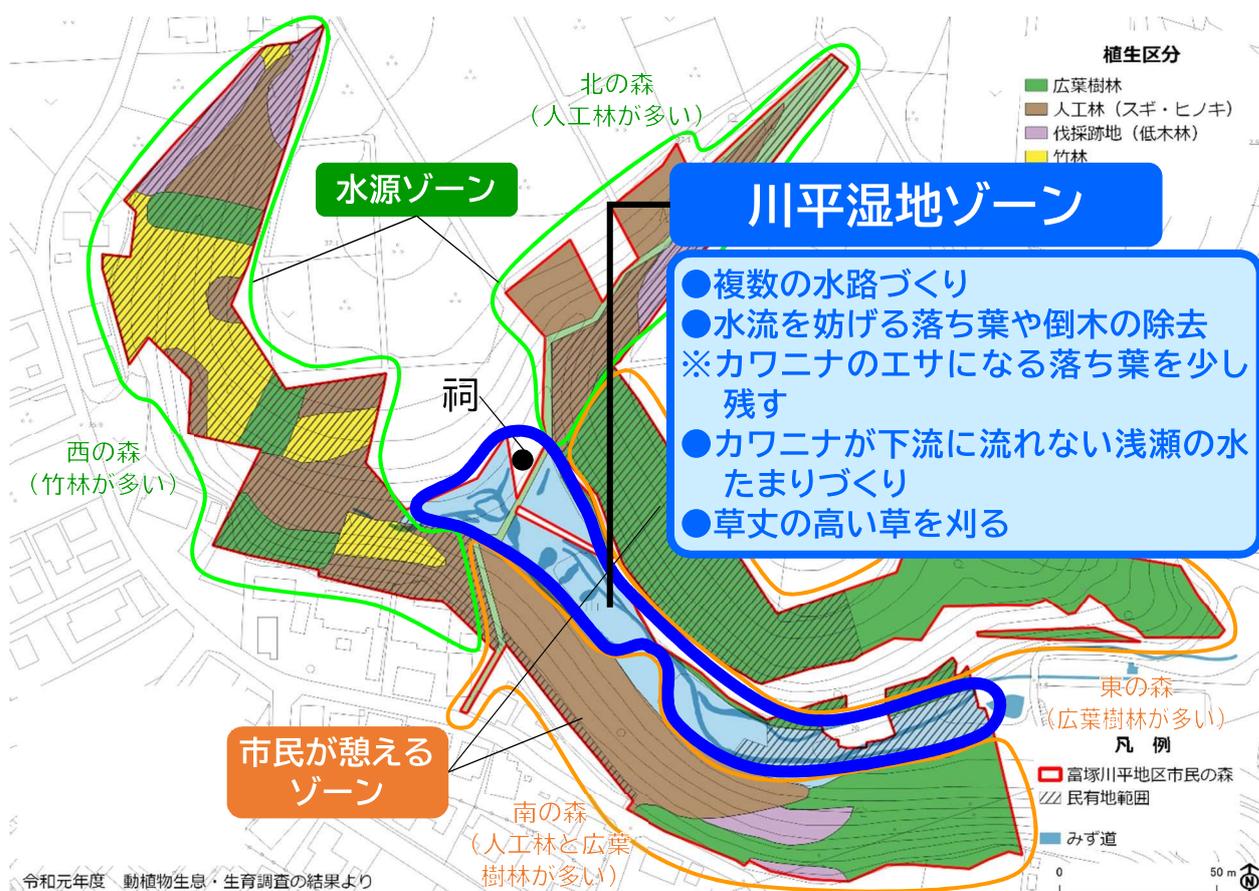
これまでの内容を踏まえ、本計画を実施するための中長期及び年間のスケジュール（案）を示します。これらのスケジュールや実施主体は、現在の活動状況を基に検討しました。活動の成熟度や整備、資金確保の状況等により、適宜見直しを行いながら実施していきます。

《中長期スケジュール（案）》

活動内容		実施年			実施主体	
		～2028	～2033	2034～	活動団体等	市
整備	間伐（高木）					○
	作業道（ホタル）				○	○
	水路・窪地づくり（ホタル）				○	
	その他の整備				○	○
保全・管理	除草（ホタル）				○	
	間伐（中低木）				○	
	危険木の除伐					○
	枝打ち（簡単なもの）				○	
	その他の保全・管理				○	
利活用	ホタルの観察会				○	
	イベント等の企画実施				○	
推進	次世代育成プロジェクト				○	
	関係人口プロジェクト				○	
	地域教材発掘・活用プロジェクト				○	
その他	勉強会（ホタル・希少種・森林管理など）					○
	土地所有者との協議					○

《年間の整備・保全スケジュール案（川平湿地ゾーン）》

項目	ホテル舞う富塚の森			春		夏			秋			冬		春	
	川平湿地ゾーン	市民が憩えるゾーン	水源ゾーン	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
水路・水たまりの整備	●														
草刈り・土砂の撤去	●				■	■			■	■		■	■		
立木・枯木・倒木等の整備		●	●	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
作業道の整備		●	●		■	■			■	■		■	■		



《市の推進体制》

「市民の森づくりに参加したい!」と思ってもらうには、まずは、地元を始めとした地域の皆さんに市民の森の存在とその魅力を知ってもらうことが必要です。今後、市民の森に関する活動については、市 HP や「広報はままつ」、Facebook や Twitter、LINE 等のソーシャルメディアを活用して積極的に発信します。市民の森は、ホテルの他にも希少な動植物が生息・生育する場所であり、誰もが自由に入出入りできる場所ではないことから、発信内容は十分に検討した上で行います。

活動計画を含め、過去のワークショップで出た意見の実現については、はじめの一步が踏み出せるよう、庁内関係課と連携し、各種助成金の紹介等も含めて、相談に対応していきます。